

政治家が受動喫煙に晒され健康を害しては 国民の1票に応えることができなくなります

大谷美津子 政治家も受動喫煙から守る会代表

心臓疾患で入院されていた 議員さんの突然の訃報

知り合いの市会議員さんが健康を害し、治療のため入院されました。お見舞いに行こうと思っていた矢先、亡くなられたという報せに衝撃を受けました。

その議員さんは、心臓疾患で入院治療を受けておられたのですが、元気な頃に「タバコの煙には、困っています」と何度かお聞きしていました。私が受動喫煙防止対策で走り廻っていることを、ご存知だったからでしょう。

当時こんなことも話されていました。「会議室には灰皿が置いてあるので、タバコを吸いながら協議をするのです。タバコを吸わない者にとつては、大変困ったことです」と。

受動喫煙被害のため、年間1万5000人も死亡する時代です。その議員さんは、何十年も受動喫煙に晒された犠牲者の一人であつたのではないかと、私には思えてなりません。

他の市会議員さんの皆さんとも親しくさせていただいているのですが、市会議員、国会議員によらず健康で体が丈夫でなければ政務はこな

せません。

1日に何十本もタバコを吸い、人並いにお酒も飲まれる議員さんが、激務をこなす姿も見えています。確かに皆さんお元気です。しかし、喫煙しない議員さんが受動喫煙被害で健康を損なうことは、見るに忍びないことです。

国政レベルでは、2002年に超党派の国会議員60名で「禁煙推進議員連盟」が発足しました。2020年に東京オリンピック・パラリンピック開催が決まると、「東京オリンピック・パラリンピックに向けて受動喫煙防止法を実現する議員連盟」

と名称を変更しました。加入する議員数は100名くらいのようです。

自民党には、「受動喫煙防止議員連盟」があります。衆・参両議員405名のうち、164名が加わり、受動喫煙防止対策の実施に向け総会などを開いています。

いずれも自分自身の健康のためというより、社会的な意味合いが強い動きです。このような取り組みがなされている一方、「自民党たばこ議員連盟」があつて、260名ほどの議員が加入しています。こちらの連盟の目的は、

一、製造たばこ小売販売業の許可に係る低調店特例の廃止

二、厚生労働省の主導によるたばこ増税を消費税率改定の時期に合わせて実施しないこと

三、過度な喫煙規制に反対し喫煙者と非喫煙者が共存できる分煙社会の構築

としています。受動喫煙防止については、

・「喫煙を偷しむこと」と「受動喫煙を受けたくないこと」は、ともに国民

の権利として尊重されなければならぬ

・このため、たばこを喫煙する者は受動喫煙を受けたくない者の権利を侵害してはならず、一方合法な嗜好品であるたばこを喫煙する者を社会的悪者として排除することもあってはならない

・したがって、「欲せざる受動喫煙を防止する」を基本理念として、たばこを喫煙する者と受動喫煙を受けたくない者双方の立場を尊重し、



衆・参両本議会で8月18日に「受動喫煙防止法」が可決、改正健康増進法が与党など賛成多数で可決、成立した。
写真=共同通信社



従来、衆議院、参議院とも喫煙は基本的に建物内の喫煙スペースでのみ可能であった。ところが、各政党の控え室は例外で、喫煙かどうかは各政党に委ねられ、喫煙する議員は後ろのほうに座ってもらうことにしていたという。国会議事堂内の禁煙環境に対する意識としては、日本で一番遅れた所であったと言ってもよいだろう。8月18日に受動喫煙防止法が可決したことで、国会内での喫煙、禁煙のエリアはどのように変化するだろうか。最大会派である自民党は、どこまでも「分煙」を主張しているのだが、分煙では「受動喫煙」は防止できないことが専門家らの調査研究で明らかになっている。

動喫煙対策。北京オリンピックですら飲食店完全禁煙で行なわれましたのに、日本は政府によってどんどん後退の一途です。請願や陳情はこれまでも多々出て国民の声は届いているはずですが、受動喫煙対策推進の難しい現実です。この膠着状態をどうすれば良いか、多くの皆様が考え憂慮されています。

原因の一つとして、政治家の皆様が議員控え室や議会棟などの受動喫煙対策をどうするかもご自身の事すら言い出せない状況も要因かと考えました。実際に最大与党衆議院控え室は、今も分煙で苦しい旨の議員さんによるツイートもあります。

超党派による禁煙議員連が立ち上がったのは2002年4月。そして今年2月13日の報道では、「東京オリパラに向けて受動喫煙防止法を実現する議員連盟」が超党派で立ち上がりました。

平成30年4月から、都議会棟が全面禁煙になると報道がありました。政治家の皆様が受動喫煙防止に取り組んで下さっています。

世界に誇る分煙先進国の実現を推進していくことが重要である
と、もっともらしい内容ですが、受動喫煙被害で大変苦しい目に遭った私や他の人にとっては、自己中心的過ぎると思えることです。

国民は皆、自分たち（加盟議員）と同じで、頑健だと思っておられるのでしょうか。昨今の政治家らしく「権利の主張」が基になっているようです。受動喫煙被害で年間1万人以上の人が亡くなる現実を前にして、喫煙する人、喫煙しない人が互いに権利を主張し合っているのは、死亡者が増えるだけのようです。

議員秘書も受動喫煙に苦しんでいます

いろいろな議員さんに接して思うようになったことは、政治家も受動喫煙から守られ、元気で政治活動に専念してもらう必要があるということでした。そのことをある議員秘書に話したところ、議員秘書も受動喫煙で苦しんでいることが分かりました。議員会館の議員室は、さほど広く

ありません。喫煙する議員の部屋は、たちまちタバコの煙が充満してしまします。換気はするとしても、壁に沁みついたタバコ煙の臭いは消えないほどです。それは、四六時中受動喫煙に晒されていることです。

喫煙しない議員秘書は、議員の喫煙に身の危険を感じている人もいることは、思わぬ発見でした。

今年の4月、衆議院議員会館のある議員室を訪ねました。議員と議員秘書合わせ5名にお目にかかり、サードハンドスモーク（部屋の壁や喫煙者の服、髪の毛などに付いた、目に見えないガス状の有害成分のこと）の話をすると、あまりご存知ない様子でした。政治の第一線で活躍しておられる方々でさえ、受動喫煙被害といっても、実態については十分に理解されてないことを知りました。

これでは、政治家自身の健康や国民の健康がタバコで害されると言っても、実感が伴わないのは当然のことではないかと思いました。

いろいろな思いを懐きながら議員会館を後にしました。帰る道すがら

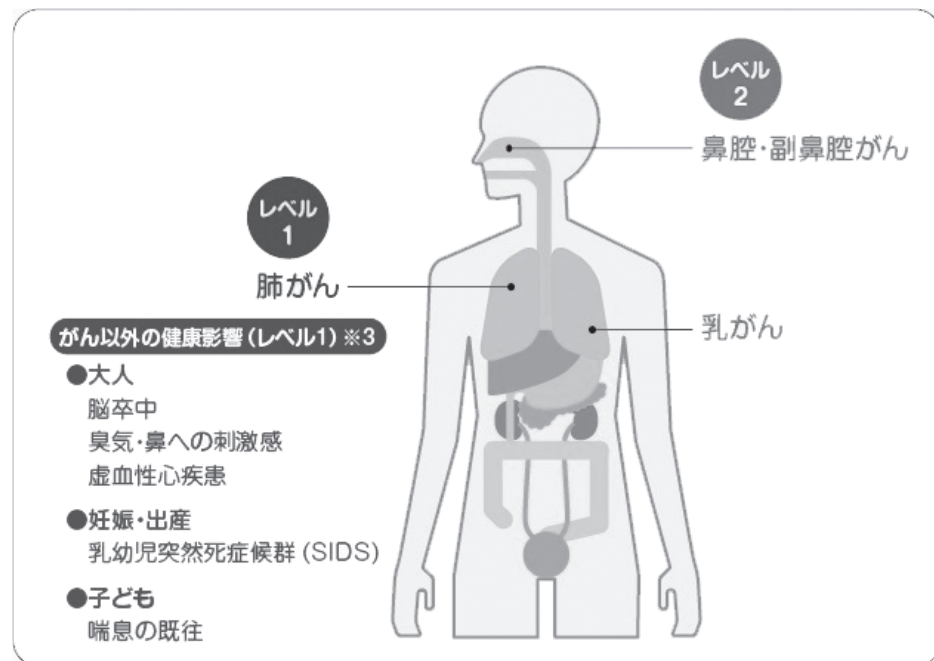
思ったことは、議員さんや議員秘書を受動喫煙から守るためにどうすればよいだろうか、ということでした。「政治家も受動喫煙から守られなければならない」と思ったのは、そんな経緯からです。

後日、そのことを旧知の議員さんに話してみると、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を2年後にして、呼びかけるタイミングとしてよいのではないかと、応援するからと励まされ「政治家も受動喫煙から守る会」を発足しようと思いました。

最初にしたことは、この会の趣旨に賛同して下さる発起人を募ることでした。執筆力のない私は、悪戦苦闘しながら趣意書を書き上げました。といひましても、既知の方に「今後、国会議員にも持参する文章になりますので、ご教授宜しくお願いします」と言って、校閲をして頂きました。それが次の一文です。

政治家も受動喫煙から守る会の趣意書

「なかなか進まない日本における受



上図は、厚生労働省「喫煙と健康喫煙の健康影響に関する検討会報告書」（2016年）に掲載された肺がんと喫煙の関係を説明したものである。厚生労働委員会の委員が受動喫煙と肺がんの関係を知らないことはあり得ないことであると思われていたが、穴見議員の野次で、そうでないことが分かった。

喫煙者が吸うたばこの煙（主流煙）の中の化学物質は、たばこ製品の燃焼部分から出る煙（副流煙）や喫煙者が吐き出す煙の中にも存在しており、受動喫煙はたばこを吸わない人の肺がんの原因の一つになります。副流煙はフィルターを通しておらず、燃焼温度が低いことから、主流煙よりも多くの有害物質を含み、受動喫煙と肺がんの因果関係は、科学的に明らかとなっています。

情報＝国立研究開発法人国立がん研究センター対策情報センター

い状況です。
その後、参考人に宛てた詫言に
は、「勘違いをしていた私の不徳に
気が付き、汗顔の至りであります」

としていましたが、不徳というより
肺がんと喫煙との関連について、知
らな過ぎるようです。
厚生労働省が発表している「受動

喫煙影響」について、目も通して
ないようです。
上の図は、厚生労働省「喫煙と健
康 喫煙の健康影響に関する検討会
報告書」（2016年）に掲載され
たものです。
そこには、「研究によると、たば
こを吸わない人に比べて、吸う人が
肺がんになるリスクは男性で4.4
倍、女性で2.8倍と高くなります。
また、たばこを吸わない人でも、周
囲に流れるたばこの煙を吸うこと
（受動喫煙）により発症する危険性
が高まることも分かっています」と
記入されています。
穴見議員は、喫煙者だと聞きました。
た。もともと頑健な体質なのでし
ょう。喫煙者である他の議員さんにも
お伝えしたいことは、あなた方の喫
煙で議員秘書や周囲の人がどれほど
嫌な思いをしているか、それに健康
を害することがあることを知って、
せっかく築いた立場を辞任すると
か、詫言を書いたりしない政治活
動を行なってくださることを期待し
ています。

ただ残念な事に、議員の皆様はご
自身の置かれている受動喫煙環境に
はまだ自らは物申せない実態を感じ
ます。私達の1票1票の希望を託し
て議会に送ったにも関わらず、そこ
で受動喫煙の憂き目にあわせること
になっているとしたら、こんなに氣
の毒な事はありません。
後年、日本で初めての『罰則付』
路上喫煙防止条例成立に結びつく先
駆的議会質問をされた市議会議員
さんがおられました。2000年頃
の事です。議会質問にあたり資料含
めお知らせ頂きたいと連絡があり、
その市議会控え室に伺いました。エ
レベーターを降りた途端にタバコ煙
が酷く、喫煙可の議員控え室から全
体空調エアコンによってその階全体
が息苦しい状況でした。
議員さんがこんなに劣悪な環境に
置かれているとは夢にも思っていま
せんでした。さらにタバコ問題に関
する議会質問を議員さんが始めます
と、市長は指さしてあざ笑ひ、側近
達に賛同を求めるような仕草を平然
と行っていた時代でした。

その後2期目に体調不良を訴え、
急激な心臓病で亡くなってしまいま
した。闘病の頃、『議会控え室等の
受動喫煙が原因ではありませんか？』
と伺いましたが、ご本人は『そ
んなことはないと思う……』と仰っ
ておられました。ですから原因はハ
ッキリしませんが、どう考えても1
票の期待を託した政治家を健康的に
良くない処に送り出すことには違和
感を持ちました。
このような事もありまして『政治
家も受動喫煙から守る会』を発足し
ました。政治家の皆様のご健康をお
守りするとともに、さらに受動喫煙
問題へのご理解を賜りたく存じます。』
**政治家と受動喫煙に関して
騒動になった直近の話題**
なんとかまとめ上げた趣意書を添
えて、旧知の皆さんに会の発起人を
お願いしましたところ、医師、大学
教授、団体会長、ジャーナリスト、
武道家など9名の方が承諾してくだ
さいました。その後、賛同者を募っ
て「政治家も受動喫煙から守る会」

の船出をしました。この会の情報発
信は、フェイスブック、ブログ等を
活用してまいります。
「政治家と受動喫煙」に関する直近
の話題を一つ紹介します。
東京都の受動喫煙防止条例が6月
27日に都議会でも賛成多数によって可
決、成立しました。これによって都
内飲食店の8割以上が対象になりま
す。
同じ頃（6月15日）、衆院労働厚
生労働委員会でも自民党の穴見陽一議
員（49歳）の発言が問題になりました。
厚生労働委員会で参考人招致され
た日本肺がん患者連絡会の代表者
が対策強化を訴えたところ、穴見議
員は、「いいかげんにしろ！」とい
う野次を2回飛ばしたとのことだ
す。
発言した参考人は、コルセットを
外し、体を賭けて受動喫煙対策への
思いを訴えたようです。それを穴見
議員は、必要以上に喫煙者を差別し
ていると誤解したとのことですが、
厚生労働委員会の委員の一人である
立場として、どんな言い訳も通らな